

2024(R6)年度 学校教育自己診断アンケート総括

20250127 運営委・0130 職会 佐藤

1. 今年度のポイント

「E.判断できない。わからない」の比率の高い質問項目は3年間の結果がそろった後に総括に加える(2年目)。

2. 回収数 web 実施5年目。保護者の提出数わずかに増加も、提出率30%以下は2年連続。

昨年度よりクラスルームの保護者アカウントを導入済み。さらなる利活用の余地は多い。学校からの連絡や情報共有のツールとしての定着が急務。家庭へのお知らせペーパー等の多くを電子化する契機ではないか。

		2024 年度		2023 年度		2022 年度		2021 年度		2020 年度	
生徒	提出数	541		605		649		745		832	
	在籍数	603		674		702		772		808	
	提出率	89.7%	±0	89.7%	-2.7	92.4%	-4.1	96.5%	-2.0	102.9%	over
保護者	提出数	178		176		215		382		575	
	在籍数	603		674		702		772		808	
	提出率	29.5%	+3.4	26.1%	-4.5	30.6%	-18.8	49.4%	-21.7	71.1%	+41.2
教	提出数	41		45		55		42		52	

在籍数は4/1時点

3. 全体の特徴 生徒評価8割台到達は2年連続。教員自己評価は微減、保護者評価は約8割を維持。

大阪府の基準でプラス評価の比率を表にすると以下の通り。府教委基準の評価 $P=(A+B)*100/(A+B+C+D)$ 単位%

府教委P	2024 年度		2023 年度		2022 年度		2021 年度		2020 年度	
	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比
生徒	81.5	-0.1	81.6	+3.9	77.7	-0.4	78.1	+4.3	73.8	+3.2
保護者	79.9	+0.1	79.8	-1.0	80.8	+0.1	80.7	+3.9	76.8	-2.2
教員	77.3	-1.1	78.4	+1.2	77.2	+4.1	73.1	+8.9	64.2	+15.6

保護者のプラス評価が高い項目

- 21
- 学校では子どもに関する個人情報を守られている…99P（昨年 97P）
- 29
- 学校は1人1台端末を効果的に活用している…95P（昨年 94P）
- 25
- 懇談週間は生徒・保護者・教員の意思疎通のために活用されている…92P（昨年 87P）
- 26
- 学校は社会や地域貢献活動に力を入れている…92P（昨年 89P）
- 6
- 先生は子どもの評価を適切・公平に行ってくれる…88P（昨年 84P）
- 5
- テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行ってくれる…87P（昨年 82P）
- 9
- 学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる…86P（昨年 75P）
- 13
- 文化祭や体育祭などの学校行事は楽しく行うよう工夫されている…86P（昨年 88P）

4. 個別的内容

- (1)「わかる授業」をめざした改善の効果は数値に現れているが、保護者の評価とは乖離がある。一方、授業におけるＩＣＴ機器の活用はほぼ定着したと思われる。家庭学習・自学習の定着を図るための取り組み、同時に基礎学力向上に資する取り組みを推進して、１人１人の進路実現につなげていきたい。

(生徒) プラス評価の高い授業に関する項目 (%)	2024	2023	2022
41.学校では１人１台端末が効果的に活用されている	93	94	88
32.ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある。	89	89	83
7.教え方に工夫をしている先生が多い。	83	84	81
4.授業はわかりやすい。	77	78	73
33.他の先生が授業を見学に来ることがある。	80	78	76
6.授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。	78	76	70
8.授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。	80	75	70
40.授業や体験活動を通して、自信がついた	72	72	62
(保護者) 4.子どもは授業がわかりやすいと言っている。	56	57	57
(生徒) 42.家庭学習が習慣となった(今年度からの追加項目)	53	*	*

- (2)過去３年間(2020-2023)「判断できない・わからない」の比率が高い項目に改善傾向がみられる。

(生徒)「判断できない・わからない」の割合(%)	2024	2023	2022
27. 生徒会活動は活発である	22%	27%	27%
35. 学校は各種検定試験の指導に力を入れている	13%	21%	22%
37. 学校は社会貢献活動に力を入れている	15%	21%	23%
2. この学校には、他の学校にない特色がある	18%	21%	21%
(保護者) 28. 学校はいじめ等について子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	42%	47%	44%
9. 学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	35%	43%	40%
26. 学校は社会や地域貢献活動に力を入れている。	27%	43%	40%
23 PTA 活動に参加できる機会がある。	34%	37%	32%

「各種検定試験の指導に力を入れている」は生徒のプラス評価も 87P に上昇。「学校の特色」については「社会貢献活動」と絡めて取り組むことで保護者の周知もはかっていく。

保護者の数値も今年度は改善しているが、提出率が低い傾向にあるのが不安材料。学校からの情報発信を強化し、学校の教育活動を広く認知してもらうことが重要ではないか。

5. 今後の課題

- (1)チーム学校・学年や分掌横断体制・教育相談と一体となった支援・家庭や関係機関との連携協働等が求められる。社会の変化に対応できる指導体制を構築していく(昨年度からの継続課題)。
- (2)(教員)「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」(+ポイント 43(2024) 34(2023) 42(2022)) は 2 年ぶりに改善するも課題。今年度は外部機関と連携した取り組み等を提案したい。